2026年10月5日 『朝礼時講話～連絡事項』

(1)講話【いつかの悲嘆が、誰かの悲嘆を包み込むものへと…】

先日、ドクターであり、お寺さんでもある沼口諭先生の講演を拝聴してきました。
先生は日頃から看取りに深く関わっている先生ですが、2日間の講演の中で、心に残った言葉を少しだけ紹介致しますと…。

『希望を持たせるのではなく、本人が見出した希望を支える』

『ＡＣＰ（人生会議）は対話である。〝今は決められない〟という言葉も尊重される』

『医療チームの一員として、答えを与える人ではなく、答えの出ない問いを共に抱える人』

『無常を知っていても、別れはつらい』

『最期の姿で、いのちを測らない（結果でみるのではなく、歩みの過程をみる）』

等々、他にも沢山お話し下さいましたが、そのどれもが心に深く語り掛けるものでした。
改めて、以前、光寿苑でも行っていた『いのちのしゃべり場』の必要性を感じていました。ご本人とご家族と職員とが一堂に会し、個々の死生観に耳を傾けたり、自分の想いを語るなどする場…。今一度、大事な取り組みだと振り返っておりました。
そして、また、話は変わるのですが、先日のあるお葬式の食事の席で横にお座りになった女性の方の言葉がとても印象的でしたので紹介しますと…。

『以前、実母を介護して、看取ったんですけど、亡くなって以降、３年間１度も泣けなかったんです私。ところが先日、Ｙ堂で買い物していて、たまたまオムツコーナーの所を歩く事になって、そしたら、実母の介護の時に使っていたオムツが棚に並べられてあって。それを見たら色々思い出して、そこで思わず泣いてしまったんです。オムツ見て泣くって、変ですよね（笑）。でも、３年も泣いてなかったのに、そこで初めて泣けたんです…。』

優しく微笑みながら仰っていました。
私が注目したのは、悲しみや憂いや後悔や、そういう心情って表には中々表れてこない事もあるという点です。立ち直っているかのように外から見えていても、本当は心の奥で泣いている…でも表出してこない。だから周りは、立ち直ったんだ…等と判断してしまいがちなんですけれども、そうではなくて、先ほどの方のように３年経って、人によっては10年経っても中々受け容れ切れていないという事もあります。それでも、生きていくために働いたり、世間と関わりを持ちながら歩んでいく。似た体験をしている人の傍らで、その悲しみや憂いや後悔に言及しなかったとしても、関わり続けていく中で、いつかの自分の心的体験が、その人を支える力になっている事も起こり得るのかも知れない。さり気ない言葉が、所作が、誰かのいつかの悲しみや辛さや後悔を包み込む事になっているのかも知れません。逆に周りから包み込まれている事もあるわけで…。とりとめもない話になってしまいましたが、今日１日の場面も大切にして行きましょう。

(2) 連絡事項 【講話+①② ＝ 理事長】

① 今月の行事は、10月18日(日)、15時から光寿苑のお年寄りの敬老を祝うステージが予定されています。ここ数年同様、交流ホームにおいて、やよい会の踊りや民謡ステージなど鑑賞する時間となります。

② 下半期に入りました。上半期目標の振り返りと、下半期の目標立案を各部署・各ユニットにてお願い致します。また、職員個人の『光寿会職員の基本の姿勢』についても点検をお願い致します。